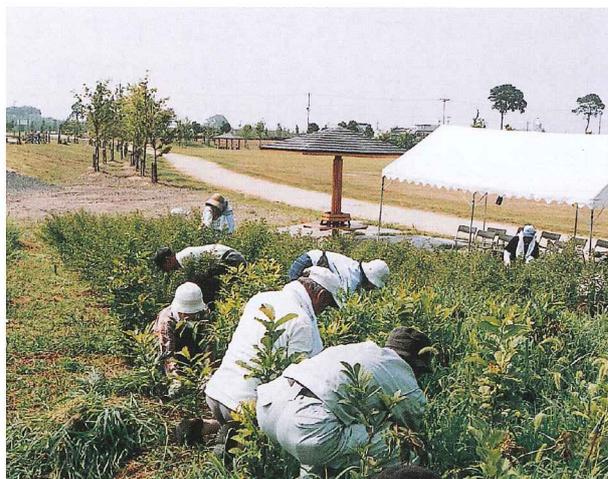


## 夏のサポーター活動

● 2004.7.24 (土) 夏の森づくりサポーター活動を行いました。今回も背丈ほど伸びた雑草を刈っていただきました。苗木も草も夏の暑い盛りにはぐんぐん生長します。この時期に苗木が雑草に負けないように「下草刈り」を行います。H13・14年に植えた苗木は雑草を追い抜き今年から下草刈りは不要になった所もあります。植栽して3年程度管理をすれば少し手が抜けるようになることがわかってきました。



森づくりは長い時間をかけて未来の子どもたちのために、森をつくりあげようとしていますが、その森の維持管理もいくらか変化が出てきました。植栽木も混み合って競争を始めました。今後は植樹木の移植も必要になります。また、自然淘汰で枯れるものも出てきますし、間引きも必要になってくるでしょう。これからの森づくりは長期的な森の整備・管理・調査等を基に進めていきます、皆様のご協力をお願いします。

## 森づくりサポーターからの一言

### 堺市新金岡町 森づくりサポーター 笠原治雄

私は、「びわこ地球市民の森」の森づくりに最初から参加し、滋賀県に来るのが楽しく、子供に帰った気分になる一人です。当時の仲間とプランター作りから始まった第1回の植樹祭より毎回、森づくりサポーター活動に参加しています。行く度に「森」らしくなり、植樹する度にあと何年で高木に生育するかと思ひ、私も長生きをしなくてはと体調に気をつけています。

森づくりサポーター活動に、沢山の子供達が参加しているのに感心していますが、子供達が大人になったとき「苗木」を植樹したことを思い出し、鳥、昆虫、小動物などがいる緑豊かな森を見て、感無量になることでしょう。今後は、森づくりサポーター仲間の交流を深める行事として自然園芸教室、木工クラフト、大人と子供のトークなどを考えて欲しいと思っています。

### 草津市 森づくりサポーター 北川博司

水・大気・土は万物の命の源だが、それらの空間を埋めてくれる森など自然の緑もまた我々人間にとって大変大事な存在である。しかし残念ながら、我々の年代がその大事な自然の多くを壊してきた。失ったものを少しでも取り戻し、それを次代の人達に引き継ぐのが壊したものの責任だ、それを出来るのは今しかないと考え、森づくりサポーターに参加している。

私は元々野洲川下流の近くで育ち、今は新草津川上流の緑の多い所に住んでいるが、昭和五十五年頃、県職員であった私は野洲川廃川跡利用計画に参画したこともあった関係で、野洲川には特別な思いがある。

数十年後、びわこ地球市民の森がどんな姿になっているか気になるが、この事業は単に廃川跡地の利用ということだけでなく、全国に向かって、自然を取り戻す運動を発信する、環境県としての意義深い事業でもあり、多くのサポーターの参加が望まれる。

## 森は酸素を作り、汚染した空気をきれいにするか？

森林は「酸素（さんそ）を作り出す」とか「汚（よご）れた空気をきれいにする」といわれます。今回は、このことについて考えてみましょう。

森林を構成（こうせい）する多くの樹木や草本類は、毎日、光合成をして有機物（ゆうきぶつ）を作り酸素（さんそ）を出しています。この働きは、私たちにとってとても大切な働きです。なぜなら、人間をはじめ多くの生き物は生きていくために呼吸をし、酸素を必要としています。また、私たちは家庭の台所、自動車、航空機（こうくうき）そして火力発電所（かりよくはつでんしょ）などで天然ガスやガソリン、重油（じゅうゆ）などの燃料（ねんりょう）を燃やして熱エネルギーを取り出しますが、そのとき、多量の酸素を消費（しょうひ）します。だから、空気中の酸素も石油や金属資源（きんぞくしげん）と同じようにやがては枯渇（こかつ）し、生物にとって困ったことになるのではないかと考え、森林が光合成の働きで作り返してくれる酸素に期待をよせる人が多いのです。

しかし、森林はどの程度の酸素を作り出しているのでしょうか。今、空気中には体積（たいせき）で約20%もの酸素が含まれていますが、これは、永い地球の歴史の中で光合成をする植物によって作り出されてきたものです。したがって、現在の空気中にある酸素を地球上の森林が作り出すには数千年もかかると言われています。

いっぽう、森林は多くの枯れた倒木（とうぼく）、落ち葉がありますが、これらは、微生物（びせいぶつ）や菌類（きんるい）の働きで分解（ぶんかい）しやがて土に還（かえ）ります。このとき、微生物や菌類は呼吸のために酸素を使いますが、その量は森林が光合成で作り返したのとほぼ同じ量になりますので、森林での酸素の出入りはプラスマイナスゼロに近いのです。

森が酸素を作り出す働きはとても大切ですが、森が水を貯（たくわ）えたり、空気中の二酸化炭素を減（へ）らして地球の温暖化（おんだんか）を防いだりする働き等と同じように考えることはできません。

次に、森は汚れた空気をきれいにするのでしょうか。

森林が自動車の排気ガスなどの汚染物質（おせんぶっしつ）やこまかいチリを吸い取ってきれいにしてくれることを期待している人も多いのです。実際に森に行くと葉っぱを見ると、葉の表にこまかい汚れが付いているのを見ることがあります。このように、森林は、汚（よご）れた空気を浄化（じょうか）するフィルター（やくわり）の役割（やくわり）をしています。

しかし、光化学スモッグなどの汚染物質は葉の気孔（きこう）から内部にはいると、葉の細胞を壊（こわ）し枯（か）らしてしまいます。酸性雨（さんせいう）が森林に大きな被害を与えていることはよく知られています。したがって、私たちは、森林が空気をきれいにするのを期待するのではなく、空気を汚（よご）さないように気をつける方が大切なことなのです。

### あ と が き

森づくりサポーターの皆さんから、サポーターニュースへの原稿をいただき有難うございました。沢山いただきましたので次回にも掲載します。

## 秋のサポーター活動

●2004.10.23(土) 秋の森づくりサポーター活動を行いました。今回は平成13年度に植えた植樹木の「裾枝払い」を行いました。混み合っていた木々がすっきりと風通しよくなり、根元まで太陽の光を受けてこれからはもっと背も伸び幹も太くなるでしょう。



混み合った植樹木の状況



裾枝払いを行いすっきりした植樹木の状況

## 「びわこ地球市民の森のつどい“2005”」のあんない

森づくりの、この1年間の活動を振り返るとともに、県民が集い、パートナーシップによる継続的な森づくりを進めるため、滋賀県と守山市が主催となり「びわこ地球市民の森のつどい“2005”」が開催されます。

日時：平成17年4月23日(土) 10時～

場所：びわこ地球市民の森(守山市今浜町3089)「ふれあいゾーン」

内容：知事・市長も出席し、苗木3,000本の記念植樹と1,200人参加(予定)による緑の関連イベントが開催されます。

森づくりサポーターは、この催しに参加し記念植樹の指導や、森づくりサポーター活動内容及び手作り作品等の展示を行います。また子供達と野外クイズラリー・水辺の散策など楽しい催しも計画していますのでご協力をお願いします。



## 森づくりサポーターからの一言

守山市守山 森づくりサポーター 井上弘司

100年後の「びわこ地球市民の森」の中で

びわこ地球市民の森が成熟し、風情ある森に成長するには100年かかると聞きました。残念ながら今の私達には夢や想像でしかその姿は見る事が出来ません。多くのサポーターの方達は100年後の森に、どんな夢を描かれているのでしょうか。

私は100年後の森に凄いのことを夢見てしまいました。それは霊になって森に住みつくと言うことです。ただ霊が住むといっても、幽霊になって薄暗い森をさまよっていたら誰も森に寄りつかないでしょうから、森の一番大きな木にとりつき、木霊つまり木の妖精に姿を変えます。そして森に遊びに来た子どもたちに木の実をバラバラとぶっつけたり、風もないのに葉っぱをざわざわと揺らして悪さを遊びます。なんとすばらしい思いつきでしょう。子どもたちの少し恐くて、でもわくわくする好奇心と冒険心の駆り立てられた姿が目浮かびます。

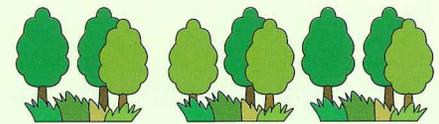
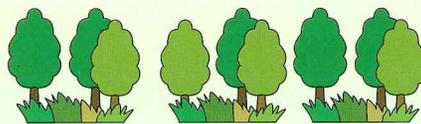
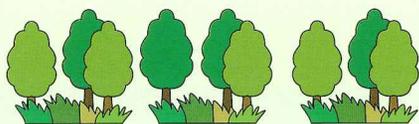
またある日の森の生活、夏の暑い日は木陰で、冬の寒い日は風のない暖かい陽だまりでハンモックに寝そべり、水筒に入れたお酒をすこし頂きながら推理小説の本でも枕にうつらうつら居眠りをします。森の梢を風が渡り、小鳥のさえずりが聞こえ、かすかに笑い声も聞こえてくるようです。やがて子どもたちが現れたら、ここは100年前にわしらが植えて育てた森だぞーと自慢をします。

ところで私だけが良い思いをしては少し気が引けますので、森が好きな皆さんの霊も一緒にどうですか。大勢の霊が森に住み着いたら、環境等は少々悪くなるでしょうが、またがやがやと賑やかで面白いかも……。勿論静かにいたい霊の方は向こうの薄暗い茂みとか、少し離れたところの太木に出来た洞にでも潜まれたらいかがでしょうか。

まあこのようなことでいずれ後日、亡霊が森に住む許可をお願いに伺いますので管理の方、その節にはよろしく。

さて森づくりサポーターの方々の思いはいろいろでしょうが、何はともあれ今は100年後の立派に生長した森に住むことを夢見ながら、この次の作業も頑張りまーす。

(木霊になって森に住みつきたい男)



守山市三宅町 森づくりサポーター 岩間満子

田や畑の少しの空き地にも住宅地と変わる今日、雑排水の側溝で「ザリガニ」取りに熱中する孫達を見るときに、少しでも自然に近い河川で、安心して足をつけて遊べる場所が近年、私達の周囲からなくなった事を痛感します。自転車遊びも車が多く思い切り走れる場所はありません。

有料とはいえ遊園地も次々に閉鎖され、ゲームセンター等が増えていくのは寂しい限りです。時代の移り変わりは仕方のないこととはいえ、我々大人も含め誰もが安心してゆっくり楽しめる場所が欲しいです。また野洲川河川敷の脇にも車の来ない長い長い遊歩道やサイクルロードが出来ればよいと思いますが、この森で孫や曾孫達が元気な声で遊んでくれるのを夢見て明日からも森づくりに頑張る決意です。

草津市橋岡町 森づくりサポーター 今井 洋

「びわこ地球市民の森のつどいに参加して」

昨年の4月24日に「びわこ地球市民の森のつどい2004」が開催され、県・市・各種団体が参加し行事が賑やかに挙行された。中でも参加者による記念植樹3,000本が最大のイベントで、植樹地も東に大きく広がった。森づくりサポーターの一員として参加し、子供達に苗木の植え方の指導にあたった。国松知事も子供達と一緒に楽しそうに植樹されていたのが印象的だった。

びわこ地球市民の森づくりも丸3年経ち、当初植樹した地球サークルも漸く落ち着き将来の片鱗を見せ始めたことはうれしい限りだ。5周年行事が楽しみである。歴史の変転もあって国土の2/3が森林に恵まれた日本だが、すでに開発で失った緑も多い「緑が消えれば文明が減びる」といわれるが、いま、目の前の琵琶湖の水や緑も森林の賜物だろう。木を一本でも植え次代につなぎたいと思う。

大津市京町 森づくりサポーター 別所昭和

環境重視の21世紀がスタートするとともに、びわこ地球市民の森づくりが開始となったことを非常にうれしく思いサポーター活動に参加させていただいています。環境県を標榜する滋賀県にぴったりのプロジェクトだと思います。

明治神宮が約80年、近江神宮が約60年前に植樹をはじめ、いまや大きく立派な森に育ちました。森が人間世界、動物達に大変役立っていることは皆さんもよくご存知のとおりであります。野洲川廃川敷42.5ヘクタール（明治神宮70ヘクタール、近江神宮20ヘクタール）が滋賀県から県民に提供され、これから20年掛けて30万本の植樹をやるとう言うプロジェクトで、今世紀半ばにはどんなに立派な森になっているだろうかと想像すると大変楽しくなるとともに頑張らなくてはと思うのであります。（これまで植樹された本数は、38,500本です。）

このプロジェクトは非常に息の長いものであり、立派に育った森を見て楽しめるのは現在の小学生が40～50歳になったときだと思います。そこでは、もっと多くの小学生がここに来て何らかのお手伝いをし、自分自身の参加経験を行い、このまたとない貴重な森づくりの最初から最後までを実体験し森の大切さ、良さなどを知ってほしいと思います。この点につき事務局にて多方面に発信して下さるようお願い申し上げます。

森のはたらきシリーズ（その8）

## 森の木は環境の悪化をおしえてくれる信号灯

木が虫に食われてもいないのに、急に枯れたり、葉を落としたり、時期はずれに黄色くなったりすることがあります。この現象は木の生えている環境が悪くなったことを私達に教えてくれているのです。

以前、自動車の排気ガス対策が十分でなかった頃は、よく光化学スモッグが発生して警報が発令されました。空気中の汚染ガスに敏感なアサガオ（スカーレットオハラという品種）などを育てていると、光化学スモッグ発生の翌日には若い葉が黄色くなり、やがて、いくつも穴があき、茶褐色になって落ちてしまうので、高価な観測器機を使わなくとも光化学スモッグが発生したことを知ることができました。

木は、自分で生きている場所を動いて変えることは出来ませんから、環境が悪くなってもじっと耐えることしか出来ません。そして、耐えることの限界をこえたときに葉の色が黄色に変わったり、落としたりして環境が悪化していることを私達に教えてくれるのです。このように、木は環境の状態を私たちに教えてくれる信号灯であると言えます。

木が弱ることは、そこに住んでいる私たちの健康にもよくないことが多いのです。私たちは、環境の悪化の原因が複雑にからんでいる場合や、環境の悪化の進みぐあいやゆるりとおこるときはなかなか気が付きません。

今までは、高速道路などの交通量の多い場所や都市の公園などには、木がよく枯れるので空気の汚染に強い木が植えられることがありました。

本当は、環境の悪化に敏感な木を道路や都市部にどんどん植えて、空気の汚染が無いかどうかの見張り番をしてもらうようにするのがよいと思われます。そして、木の信号灯がいつも緑を示すように、私たちもまわりの空気を汚さないように気をつけることが大切だといえます。